

地区とのタウンミーティング 議事概要

日 時	令和7年11月21日（金）午後7時～午後8時
地 区	青山地区
場 所	青山自治会集会所
参加人数	11人

テーマ1「これからの自治会の在り方」

主 旨（区長）

- 青山地区でも自治会加入率が70%まで落ち込んでおり、危機感を持っている。
- 自治会の存続に向けて、地区と行政が協力して実施できる取組みや施策について意見交換したい。

市 長

- 市としては、原則、自治会には入ってほしいと考えているが、強制はできない。市としても加入を呼びかけるが、地区の皆様にも同様に呼びかけをお願いしたい。
- 自治会に対する財政支援や人的支援は、市としても実施可能である。施設整備補助金や防犯灯の電気料金補助金などもあるので、今後も可能な範囲で支援していきたい。
- 過去に市が購入し、空き地となっている土地については、来年度を目途に売却する予定である。売却にあたっては地区の意見も聞く予定だが、新しく住宅を建築する場合は、入居者の自治会加入を売却の条件とすることも考えられる。

意 見

- 自治会加入率減少の主な要因には、地域住民の高齢化と自治会活動の負担による若い世代の加入率低下があると考えている。自治会活動の簡素化や効率化に加え、自治会加入の魅力やメリットを作っていくことも重要だと思っている。
→ [市長] 自治会加入に伴う会費や業務の負担に釣り合うほどのメリットを示すのは難しい。移住者が自治会に加入することを前提とできるよう、住宅の販売事業者と協議するなどの方法が現実的だと考えている。
- 自治会がみんなの集える魅力的な場所になればいいが、自治会館も老朽化しており、若い人が来たいと思える場所ではない。若者が魅力を感じられる集会所の建設が課題だと考えている。市としても支援をお願いしたい。
→ [市長] 一部の例外を除き、市内の集会所は市が建てたものではない。寄附を受けて名義が交野市になっている場合でも、基本的に自治会が住民負担で管理するものである。多くの会館が老朽化しているのは事実であり、対策の必要性は感じている。今後は学校を活用できるように制度を変えていく方が良いのではないかと考えている。
- 集会所の老朽化は大きな問題である。修繕するか、新築するかの検討も、自治会費に大きくかかわってくることであり、頭を悩ませている。学校を簡単に利用できるようなルール整備や、別の目

的に整備した建物を集会所として使えないかなど、継続して検討をお願いしたい。

- 自治会加入にあたっては、役員就任が一番大きなハードルだと考えているが、場合によっては会合に参加することも負担だという人もいる。自治会のルールを変えていく必要も感じている。全国的には、役員の仕事を減らすため、回覧のデジタル化や集金ノウハウの効率化などで成功している地区もあると聞くので、行政の繋がりや情報収集し、地区にも情報提供してほしい。
- 住宅業者に自治会加入の促進をお願いしたこともあるが、加入に結びついていないのが現状である。市からも口添えいただけるとありがたい。

テーマ2「交野市の未来像について」

主旨（区長）

- 交野市をさらに魅力ある地域としていくための施策について、住民も積極的に参画できるよう、意見交換をしたい。

市長

- 日本全体の高齢化率は約30%だが、交野市では約28%と全国平均より低く、男女平均の健康寿命も大阪府内33市の中で最も長いデータが出ている。また、人口も子育て世代の転入超過が続いており、今後もより健康で、若者に選ばれるまちになるよう取り組んでいく。
- 市の大部分は、市街化調整区域の農地だが、その維持継続が難しくなっている現状を受け、寺・向井田地区ではまちづくりの協議も進めている。将来的にはいきいきランドのあたりまで市街化編入する想定である。
- JR津田駅と河内磐船駅の間には新駅の建設を検討している。整備が完了すれば、周辺に住宅建設が可能となり、周辺地域の活性化に繋がると考えている。青山地区についても、全体の活性化や最寄り駅の建設等を含めたまちづくりに取り組んでいきたい。

意見

- 交野市役所の本館・別館前の花壇に花が植えられておらず、寂しいと思っている。プランターでもいいので、少しでも花があるといいと思う。
→ [市長] 昔はボランティアが管理してくれていたが、高齢化等に伴い、管理する人がいなくなっている。意見は要望として受け止めるが、市として管理費用をかけて取り組むのは難しい。
- 交野市の魅力をもっとPRできるような取り組みをしてほしい。土地区画がきれいでも、魅力が無ければ若い人も来ないと思う。
→ [市長] 将来的には、「住環境が良く交通環境も良いまち」を目指している。交野市は他の多くの自治体と異なり、住宅を建設すれば売れる状況である。大阪府チャレンジテストでは、府内33市中7番目か8番目であり、犯罪発生率も1番目か2番目に低いという市の強みはこのまま活かし、魅力の発信を続けていきたい。また、市も関与しながら、今後もまちづくりは続けていく必要があると考えている。

テーマ3「公共交通(おりひめバスの運行)について」

主旨(区長)

- 青山地区は交野市の中でも最寄り駅まで遠く、交通に不便のある地域である。京阪バスが走っていた頃に利用している住民は少なかったが、高齢化が進んできたことで、今後の外出に不安を持っている人が多い。
- 9月には、おりひめバスの地区での利用率を調査したり、アンケートを取ったりして、市に改善提案を提出した。今後の公共交通について意見交換をしたい。

市長

- これまでの利用状況としては、東部ルートや北部ルートは利用者が増加しているが、青山・向井田地区を走る中部ルートはほぼ横ばいの状況である。今後、路線の改善にも取り組んでいくが、利用者が増えないと議会や市民に説明できず、運行継続も難しくなる。より一層の協力をお願いしたい。
- 路線の改善として、旧第一中学校付近や向井田を通って青山集会所へ向かう新ルートを検討しており、集会所前にもバス停を設置したいが、片側歩道の通りなので対応に苦慮している。このルートでは、交野市駅の東側にバス停を設置することが困難であり、反対側のロータリーまで戻ると運行に支障が生じるため、一旦は交野市役所スタートを想定している。将来的には交野市駅からスタートできるよう、歩道整備も含めて整備していきたい。
- 国の補助金申請のスケジュールもあり、事業者との契約時期が制限されるため、新ルートでの運行開始は来年7月を見込んでいます。

意見

- 交野市駅までのルートがあればもっと利用率は向上すると思う。現状では、タクシーを使うか、市役所から歩くしかない。今後、交野市駅まで延伸をお願いしたい。
→ [市長] 現状、河内磐船駅で乗り換えて交野市駅まで行けるバスが3本あるが、あまり利用されていないのが実情である。今後、交野市駅までのバスを通したとしても、結局誰も乗らないということになれば、バスを廃止せざるを得ない。他の地域に比べて、利用者が増加していない(横ばい)状況もあり、市としても、交野市駅にバス停を設置しても使われないのではないかという不安がある。まずはバスをもっと活用してほしい。
- 乗車率は改善する必要があるが、現在バスを利用している住民は、交野市駅まで行けず困っている。その状況も考慮してほしい。
→ [市長] 乗客のいないバスを走らせることは、市議会や他地区に対して説明ができない。乗車率改善の協力をお願いしたい。
- 来年、交野市役所まで行くルートに変更されるとのことだが、それなら交野市駅に停まるほうが良い。また、交野市は道路整備も進んでおらず、長年変わらないままである。改善してほしい。
→ [市長] 交野市駅の市役所側の道路については歩道の整備を検討している。今の交野市駅の前には停められる場所がないので、来年7月には間に合わないが、開発に併せて、将来的にはバス停を設置する予定である。ただし、乗車状況が変わらなければ廃止することになる。